

「気づき」から見えてくる リスクマネジメント



宮本章生 [みやもと・あきよ]
介護老人保健施設あみ（静岡県）
リハビリテーション科 科長

はじめに

当施設にはリスクマネジャーが2名おり、2021年度からリスクマネジメント委員会を立ち上げ、今日までさまざまな取り組みを行っていますが、4年間試行錯誤を重ねてきました。

私自身は入職して10年が経ち、法人の勤続表彰として、賞状と記念品をもらいました。大人になってから表彰されることなどなかったため、喜びと責任を感じていたところ、今回のお話をいただきました。とても貴重なこの機会に、自分自身を振り返り、いままでの取り組みや考えを伝えることで、誰かの「気づき」や新たな取り組みのきっかけになればと思います。

施設紹介

当施設は、静岡県静岡市葵区北部の自然豊かな地域に位置しており2002年4月に開設。1階は通所リハビリ（定員40名）、訪問リハビリ、2階は認知症専門棟（定員50床）、3階は一般棟（定員50床）の施設です。また、居宅介護支援事業所を併設しています。

2023年5月にサテライト型老健施設を開設。1階は看護小規模多機能型居宅介護、訪問看護、2階はサテライト老健（定員29床）、3階は通所リハビリ（定員30名）の複合施設となっています。

他に、母体としてクリニックがあり、法人理念である「誠心誠意」「気づき」「向上心」を念頭に地域貢献できるように、日々尽力し一体的に運営をしています。

業務について

私は当施設で作業療法士として、入所・通所・訪問で業務にあたっていました。サテライト老健の開設後は、両施設で兼務しています。その頃から、現場を離れることが多くなり、現在では管理や委員会への参加

が主な業務になっています。また、防火管理者や設備や備品の修理などさまざまな業務も行っています。

私は、「笑顔になる楽しいリハビリ」をモットーにしています。笑顔になれたり、リハビリが楽しい時間になることが、意欲向上や心身機能の向上になると思っています。維持期だからこそ、その方に合った生活スタイルや代償動作、環境設定なども意識しています。

また、「気づき・目くばり・思いやり」を念頭に置いての業務も心がけています。この3つの言葉に関しては「気づき」につながるのではないかと思います。「気づき」に関してもリハビリ業務で重要なものであるのではないかと思います、科内でもよく話をして大切にしています。

「気づき」はリハビリだけでなくリスクマネジメントでもとても重要なことであると考えています。そのため、「気づき」をテーマにリスクマネジャーとして活動しています。

テーマ

当施設では、リハビリテーション科が事故防止対策委員会の進行を行っています。私も入職して3年目から事故防止対策委員会の進行やとりまとめを行いました。しかし、事故防止対策やヒヤリハット、事故報告書作成などには難しさを感じるばかりでした。

そんなとき、リスクマネジャーの存在を知り、養成講座に参加したいと思いましたが、申し込みに関わらず1年後の参加になってしまいました。自分自身のリスクマネジメントができていなかったわけです。

また、勉強不足だったので、「リスク＝事故」だろうと考えており、養成講座を受けても事故についての知識が増えるぐらいだと思っていました。さらに、その頃は他の委員会とのつながりに対しても意識が低かったのです。